R・Flagプロジェクト通信

NPO法人成年後見センターかけはし　　神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP：http://www.kakehashi-tomoni.org/　E-mail:info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL：046-244-5551　FAX：046-244-5534

かけはし NPO法人成年後見センター
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

第7回 かけはしWAM助成事業
色々な分野で繋ぐ支援

12月12日(土)・13日(日)の2日間にわたり、県央福祉会法人会議室を会場に「トラブル・シューター研修会」を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの〝令和2年度WAM助成講演会・研修会事業〟の第五弾となる二日間型の研修会となります。当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、常時換気を行い、3密を避けた状態で実施しました。生活支援事業所、グループホームなどの福祉施設職員、障がいのある子の親など延べ41名が参加しました。

研修会1日目

12日午前の部講師は、前月のシンポジウムでパネリストを務めた**佐瀬睦夫氏**（社会福祉法人 県央福祉会 理事長 写真㊥）。「NPO法人成年後見センターかけはし」を何故設立したのか、そもそも成年後見制度とは？など、制度の概要のお話が進むにつれて、佐瀬氏の思いの丈、そして県央福祉会への愛情が溢れてきました。国家資格を持つ職員が沢山いる県央福祉会の現場力を向上するには、職員にチャンスを与えて戦力にしたい。個々が使命感を持ち、現場の力になっている事に是非プライドを持って欲しい、と。佐瀬氏の目指す、本人の意思決定をサポートするシステムも、こうした現場の職員の成長を促すべく、佐瀬氏自らが精力的に活動されているからこそきっと実現するのだと思います。佐瀬氏は来月のシンポジウムにも登場されます。

県央福祉会利用者さんの素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト

佐瀬 睦夫 氏

午後の部は、3年連続でお招きしている浪花の人気講師**辻川圭乃氏**（辻川法律事務所 弁護士 写真㊦）。障がいのある人が社会の様々なバリアによって巻き込まれるトラブル。その報告と対処方法のお話をされました。これまでの、警察を相手に苦労されたお話、障がい者への理解が得られず和解に至らなかったおはなし、独特な辻川節で展開されました。辻川氏は、自閉症をもつご自身のお子さんが、社会に出た時に少しでも住みやすい社会になってほしいと願い、活動を始めた社会にある、障がいのある人に対する間違った見解は、早い段階からのくりかえしによる、環境づくりが大事なのだと述べました。

辻川 圭乃 氏

研修会2日目

13日午前の部は、心理分析の専門家、**角山富雄氏**（湘南心理カウンセリング研究所 所長 写真㊧上）。角山氏は、3年連続でお招きしている人気講師です。今回は〝逆転の発想！〟コロナ禍の置き土産～不安について考える～〟と題し、「オブジェクション大歓迎！気になることはどんどん出してください」と始まりました。この80分間の講演は、対話型形式の講演会にしましょう！」と始まりました。

コロナ禍で生きる私たちにとても貴重な時間となりました。角山氏の哲学的なお話、ユーモア、そして胸に残るエピソード。参加者は皆、それぞれに考えを持ち帰り、自分なりに考えを深めていくのではないかと思います。

ゆとりのある〝今〟を生きる事は〝不安〟の中で生きていくための創造力を生むのでしょう。

角山 富雄 氏

午後の部は、こちらも昨年に引き続き登場の**坂本千花氏**（坂本千花法律事務所 弁護士・社会福祉士 写真㊧下）。大学卒業後、特別養護老人ホームに勤務した経験から、坂本氏が感じた緯を本人の目的や実現に向けた行動力、坂本氏の熱心かつ丁寧な話し方、加えて一層不利にならないよう、開かれたコミュニケーションなどに、そして障がいを持つ人からの相談に対する解決策の提示など、多岐にわたる内容でした。

坂本 千花 氏

次回1月16日(土)のシンポジウムで、今年度のかけはしWAM助成事業は終了となります。